

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京芸術大学

1 全体評価

東京芸術大学は、我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命として教育研究と社会連携活動を推進している。第2期中期目標期間においては、国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすため、「全国芸術系大学コンソーシアム」の設置を発案するとともに、芸術系大学を評価する指標となる「ブランディングシステム」の構築に向けた取組を実施しているほか、学生に海外経験を積む機会を与える「アーツスタディ・アブロードプログラム」を開設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、次のような「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

- 世界一線級のアーティストユニットを誘致し、国際共同カリキュラム構築等を通じた国際水準の芸術系人材育成を推進するとともに、国際的芸術系教育研究拠点としての機能強化を目指した計画を定めている。

平成27年度は、「グローバルアート国際共同カリキュラム」の構築に向けた連携協定に基づき、世界トップレベルの3大学から教員・学生のユニットを誘致するとともに、協定校や連携機関等から延べ169名の教員・専門家を招へいしている。また、「飛び入学」制度の構築や平成28年度からのグローバル化に対応する新たな研究科及び専攻の設置に向けた準備を行い、国際水準の人材育成体制の強化を進めている。さらに、この計画を推進するための体制として、IR機能を強化し学長のリーダーシップを補佐するための「戦略企画インテリジェンスユニット」を学長直下に設置し専任教員2名を配置している。

- 「上野の杜」を中核とした「“藝大力”創造イニシアティブ」の展開による国際ネットワーク基盤を生かした国際共同プロジェクトの実施や、芸術系大学におけるブランディングシステムの構築等の取組を通じて、グローバル人材育成機能等を強化するとともに、世界ブランド“藝大”を目指した計画を定めている。

平成27年度は、上野「文化の杜」新構想実行委員会の下で加盟する各文化施設と連携して『上野「文化の杜」アーツフェスタ・2016春』を開催しているほか、この計画を推進するため、分野横断型の教員組織である「芸術研究院」を新設し、グローバル化に対応した教育研究組織の改革を進めている。また、グローバルサポートセンターを新設し海外留学を希望する日本人学生への支援機能を強化したことにより、海外留学学生及び海外研修学生の延べ人数は約180名となるなどの成果を挙げている。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

分野横断・融合型教員組織である「芸術研究院」の新設や、グローバル人材育成を牽引するための教育研究組織である「大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻」、グローバルな舞台で活躍するトップアーティストを育成するための「大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻」及び「大学院音楽研究科オペラ専攻」の設置申請を行い、急速に展開するグローバル社会に対応した教育研究組織の改革を進めている。また、新たにテニユアトラック制度を導入するほか、クロス・アポイントメント制度による外国人研究者30名の雇用、年俸制への適切な業績評価の導入、92名への年俸制の適用等を実施し、人事・給与システムの弾力化に取り組んでいる。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善	○				
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ グローバル化を牽引するための分野横断・融合型教員組織の新設

各分野の専門性を越えた教育研究の活性化を図ることを目的として、分野横断・融合型の教育研究組織「芸術研究院」を新たに設置し、従来は分野ごとに実施されていた教員人事を一元的、計画的かつ柔軟に行う体制を整えている。教員配置を一元的に行うことにより、従来では縦割りにならざるを得なかった教育研究活動についてより学際的な共同研究等を活発にし、新たな芸術表現領域や研究課題の開拓を進めることとしている。

○ 新進気鋭の若手芸術家や卓越研究者の積極的な獲得

教育研究の活性化・グローバル化を全学的に推進するため、新進気鋭の若手芸術家の採用、クロス・アポイントメント制度等を活用した海外一線級の研究者等の卓越教員としての雇用、業績を給与に明確に反映する年俸制適用教員の拡充など、柔軟な人事制度を活用して人材獲得に努めた結果、若手芸術家10名、卓越教員等を30名雇用している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、文化遺産の復旧事業を新たな資金調達方法で実現していること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**特筆**される。

○ クラウドファンディングを活用した壁画復元プロジェクトの成功

平成13年に破壊されたバーミヤン東大仏の天蓋を飾っていた壁画「太陽神と飛天」を、大学の特許技術を活用して原寸大で完全復元するため、クラウドファンディング企画会社と提携して目標金額400万円を超える463万円の支援金を獲得し、復元制作を実現している。さらに、クラウドファンディングを活用し広く援助を募ることにより、支援金調達と同時に復元事業の文化的意義を広く周知する効果も得られており、評価できる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 積極的な寄附金獲得策の展開

「東京芸術大学基金（藝大基金）」の拡大を図るため、「ユーラシア文化交流基金」「芸術図書館計画」「赤レンガ前広場整備計画」等の寄附募集プロジェクトを立ち上げるとともに、在校生の父兄に対する電子メールの送付や、演奏会等の一般参加者等に対するマーケティングの推進、企業との提携による事業提供型の寄附受入活動や遺贈受入環境の整備等を実施し、約6,100万円の基金を獲得するといった成果を挙げている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 芸術系大学ブランディングシステム開発の推進

教育研究・社会貢献等の業績評価方法が確立されていない芸術分野において、芸術系大学の相対的な強み・特色等を明確化する指標となる「ブランディングシステム」を構築するため、学長直下の「戦略企画インテリジェンスユニット」に専任の教員2名を新たに配置し、国内外芸術系大学における教育研究活動状況等に係る情報収集・分析や世界大学ランキング等を運営する外部機関との協議を実施している。

○ マスメディアや企業と連携した戦略的な情報発信

各局の番組において教育研究活動や取組を広く取り上げてもらうため、マスメディア等に対する情報発信を戦略的に実施したり、より多くの人に芸術の魅力を伝えるため、企業等との協力の下、駅構内や公共施設等のパブリックスペースにおける展覧会や演奏会等を積極的に展開したりするなど、教育研究の成果を戦略的に発信するための取組を実施している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②環境管理、③安全管理、④法令遵守、⑤大学支援者等との連携強化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学生海外派遣事業アーツスタディ・アブロードプログラムの実施

教員が専門分野の特色を生かし、各国の芸術祭や音楽祭への参加、海外芸術系大学との共同制作を企画し、学生を海外に派遣する単位修得実践型教育プログラム「アーツスタディ・アブロードプログラム（ASAP）」を新たに開設している。美術・音楽・映像の3分野・計11の活動に86名の学生が参加しており、「海外派遣奨学金」の支援の下に国際舞台で活躍できる優れた芸術家になるための経験を積む機会を提供している。

○ 「全国芸術系大学コンソーシアム（仮称）」構想の推進

我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命とする大学として、日本初となる「全国芸術系大学コンソーシアム（仮称）」の設置を発案し、東北から沖縄まで全44大学の参画表明を得るなど、芸術系大学連携の実質化のための全国展開・組織化に向けて取り組んでいる。

○ 国際交流協定の更なる拡充と中東地域の芸術文化リソースを活用した戦略的展開

教育研究の質向上と国際化の促進を図るため、世界屈指の規模・教育研究力を誇るベルリン芸術大学（ドイツ）、絵画作品の高精細データや科学分析技術を有するオランダ芸術科学保存協会等との国際協定の締結により、国際交流協定数を23か国・地域、63大学・機関へと拡充するとともに、ベツアルエル美術デザインアカデミー（イスラエル）、ミマール・シナン美術大学及びアナドル大学（共にトルコ）との間で国際共同プロジェクトを開始している。

○ 芸術文化の力を活用した災害復興支援・障害者支援の推進

芸術文化の力を活用した社会貢献活動として、宮城県仙台市・栗原市・気仙沼市・登米市等において音楽アウトリーチ及び早期教育プロジェクトを実施するなど、東日本大震災復興支援に継続的に取り組むとともに、金沢美術工芸大学と連携し、自ら芸術活動を行っている者で、障害者の芸術活動を支援できる人材の育成に取り組んでいる。

○ 医療・医学との分野横断型連携による教育研究活動の推進

「医学・医療と芸術の融合」による医学・芸術両分野のさらなる発展を目指して、西洋医学・医療の伝統を持つ順天堂大学との間で連携・協力協定を締結している。この協定に基づき、音楽セラピー等の共同研究の推進や、解剖・病理分野と美術解剖学における連携、順天堂医院におけるホスピタルアート・ヒーリングアートの展開等、両大学の資源を生かした教育研究活動を進めることとしている。